

稲門英語会だより

第7号
平成11年
11月1日

稲門英語会執行部が交代します

稲門英語会の執行部も次の世代にバトンタッチをしていくために交代することになりました。3期6年にわたり、幹事長をつとめた、志賀隆氏(昭和37年卒)副幹事長大渡肇氏(昭和38年卒) 監事大野功氏(昭和34年卒)小原雄介氏(昭和39年卒)が退任します。

新しい幹事長には君和田正夫氏(昭和39年卒・朝日新聞常務取締役)が就任されることになりました。その執行部体制は下記の通りです。会長の松橋功氏は執行部の円滑な交代を見守るために留任していただくことになりました。

- 稲門英語会平成11年度執行部役員候補
- 幹事長 君和田正夫(昭和39年卒)新任
 - 副幹事長 秋原 亞海(昭和39年卒)新任
 - 坂田 幸夫(昭和40年卒)新任
 - 高須 武男(昭和43年卒)新任
 - 岡田 俊雄(昭和46年卒)新任
 - 平松 昌雄(昭和53年卒)留任
 - 田中 久雄(昭和40年卒)新任
 - 山内 正樹(昭和41年卒)新任
 - ゴルフ会担当幹事 渡井 弘(昭和40年卒)新任
 - 房園 武男(昭和40年卒)新任
 - WESS国際研修会担当幹事 一花 稔(昭和39年卒)留任
 - 関根 次郎(昭和42年卒)新任
 - 会費自動引落担当幹事 小原 雄介(昭和39年卒)留任
 - 大垣 嘉彦(昭和42年卒)新任
 - 広報・稲門英語会だより編集担当幹事 古藤れい子(昭和41年卒)新任
 - 志賀隆氏(昭和37年卒)は副会長に就任
- なお、事務局を務めてきた大渡肇(保健同人社)が坂田幸夫(日本アド)に替わりますのでよろしくお願いいたします。
- 新 稲門英語会事務局 千原10051
新宿区西早稲田2-3-26日本アド
TEL 03-3207-6688
TEL 03-3207-6681
FAX 03-3207-6685



幹事長挨拶 君和田 正夫

三十数年間、英語に無縁の、日本語に特化した記者生活をして来た人間が幹事長を引き受けるという事は、私にとつてのみならず、英語会にとつても大変なパラドックスといっているだろうか。

私と英語の接点は、現在ただひとつインターネットだ。ビジネス、外交といった分野で世界共通言語の地位を確保した英語が、大衆社会にまで広がった、といっても、せいぜい海外旅行、留学の段階で足踏みしている。

しかし、インターネットは、デファクトスタンダードとしての英語を、現実の通信の世界のみならず、先端技術の開発の面でも「デジャリ」スタンダードとまでいかに力を与え国民一人一人のレベルにまで日常言語化しようとしている。

英語会OBの結束を図り、現役学生との交流を深め、新たな様相を見せ始めた英語の役割の一端を担うために、固辞ばかりしていても、ちががあかない、と覚悟した。あとは会員の皆様のご支援をお願いするばかりだ。

退任挨拶 志賀 隆

約六年間、稲門英語会幹事長を務めさせていただきましたが、今度、退任することになりました。この間、皆様から暖かいご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

英語会創立百周年の記念式典、祝賀会が約五百名の会員の出席のもと開催されたのが、平成6年5月28日、この日を境に稲門英語会は大きく変わってきたように思います。種々新しい活動プログラムに、会員が積極的に参加するようになり、年代を越えた親睦の輪が広がってきています。懸案でありました「英語会百年史」も、昨年末に無事発刊することが出来ました。

ご承知の通り、稲門英語会は千六百名の会員が在籍している大きなクラブです。価値観の異なる、この幅広い年代の方々が直接、間接、会の活動に参加されることが理想ですが、それはまず不可能です。また会の運営も一部関係者の献身的努力のもとに成り立っているのも事実です。数多くのペンディング事項を残しつつ退任するのは、やや心苦しく思いますが、後任の君和田新幹事長が持ち前のIDEA&CHALLENGE精神で、会をより充実、発展させること期待し、また確信しております。皆様の絶大なご協力を今後ともお願い申し上げます。

名簿を配布します

当会会員約1600名の名簿が刷新されます。1000年史の剰余金の一部を活用し、全会員の名簿を作成・配布することになりました。

12月上旬に各期の常任幹事を経由して配布する予定です。

最新情報を盛るべく最善の努力をします。

前略、同期の近況お知らせします

昭和17年ベーカー夫妻の思い出

半世紀以上も昔の話です。野尻湖の合宿に、アメリカ人のベーカー夫妻が先生として参加されていまして。ご主人は「高と帝大(東大)で教鞭を執り、奥さんは早稲田と青山学院で英会話を教えていました。

合宿中、夕食後毎晩、ダンスのステップを覚えてくれたのが、このベーカー夫妻です。二週間後には、なんとカブラス、ワルツ、タンゴが踊れるようになりました。これが私がダンスに接した第一歩でした。

先生ご夫妻は、日米開戦前の夏休みに急遽帰国されましたが、その際、先生よりさよならの葉書を受け取りました。今でもこの葉書は私のアルバムに残っています。残念ながら、先生ご夫妻の消息はその後まったく途絶えました。でも私をダンスに結び付けてくれたのはベーカー夫妻である、その面影をなつかしく今でも思い出します。

終戦後、商社勤務中、ラテンダンスのジルバやマンボのステップを知り、覚えたいと思っていました。チャンスがありました。

そして現在、老後の勉強として念願のラテンダンスを覚えようと、妻が入っているサークルに入会し、楽しく踊れるようになりました。(吉野 清)

昭和34年卒業40周年になりました

卒業40年に当たる同期会を去る8月23日銀座並木通りエスクァイアクラブで開催、15名が参加しました。毎年増える晴耕雨読族の鉄振りが花が咲き、今回は可愛い孫が待っているのが二次会に参加しないというお爺ちゃんが出現しました。又卒業以来初めての参加という中杉(神原)千能さんが大歓迎を受けました。以前は誰かが海外勤務に赴任する時、海外から帰任した時に集まるのが常でしたが、今ではほぼ全員が20名余りが首都圏に在住乃至は本拠をもっており、毎年同期会を開くことが出来るようになりました。

只、アメリカ在任の唐木康子さん(一)

昭和35年名古屋で親睦会

昭和35年(1960)卒の同期会を例年、川岸兄のご好意で愛宕山の同氏宅で春は親睦会、年末には忘年会を持ち、旧交を温めておりました。引退する仲間が徐々に増える年代であり、既に三名の仲間が鬼籍に入っています。本年は川岸宅が改築中ですので、名古屋に住む津田兄の提案で同地で親睦会を持つ計画を立案中です。出来れば、家族も参加し親睦会の後ゴルフ組と観光組にわかれ、秋の名古屋周辺を楽しめればと期待しております。(毛塚力夫)

昭和36年安保世代サブロー会の近況

住商コンビ野・原田の幹事による例年は1月8日に11名出席。紅一点、会田由紀子久々の登場。白石瑛一は父親の看病に忙殺、遠間昌平は札幌永住の為欠席。昨今は多刊紙に百貨店の歴史を執筆中。寡黙の会、矢部隆一(オリイ社長大いに語り、徳島の中学時代にスピーチで全国優勝をしたとか、筆者など何回挑戦しても矢部・清水37卒に歯が立たなかった道理を悟った次第。その他近況、川村泰道、大日本インキ常務取締役昇任、吉田伸弥、6月、ケンブリッジに短期留学、英語を学ぶ。

三六会のゴルフ人口は10名強。WESSのコンペにも積極的に参加を呼びかけたい。幸い、物故者は岡田・阿部峰雄元日商石井のみで、皆、体も口も達者な今日この頃。頭髪の多さで群を抜く伊東照雄(元高砂熱学)の若さは又、格別である。(福田浩人)

昭和38年英福会

平成11年6月18日銀座櫻園で英福会を開きました。日経新聞の奥田君がTXN

昭和41年頭を向けて洗っていますか

ウマ年に卒業したため「早馬会」を冠している我が同期の面々も、三々五々ではあるが定年の時期を迎えた。関連の企業に転籍して「社長」になった者がいる。

昭和39年和龍会寸播

1、WESS同窓の朝食勉強会が随時パレスホテルで開かれていたが、世話人が39年卒の一花君。出席者の最大勢力は彼の同期の和龍会メンバー。常連は秋原、加川(毛馬内ムン)ザ、佐藤龍彦、鈴木和典、安富。私の記憶で今まで出席したことがある同期は、村上、君和田(講師として)、奥田美代子、安富渥子、佐々木手嶋、中島等。

2、サラリーマンの必須科目ゴルフ。腕に自信のある和龍会の猛者達が束になって1年後輩のWESS組と時々対抗戦をやっているが、今まで完敗。

3、我が同期で幹事長だった垣見忠彦氏はカリフォルニア在住だが、時々帰国する折りを捉えて有志が集まり、一杯やりながら議論を楽しむ。英国では、カコ(小川和子さん)が、ロンドン郊外に居を構えた。

4、和龍会の女性メンバーは15名いるが、共通の友人を誘って時々集まっている。

5、和龍会のメンバーは、名簿上は60人を越えるが、残念ながら、消息の分からない人達もいる。海外在住は、垣見、小川、遠藤(ミンヘン)、奥田(ニューヨーク)、和田(サンパウロ)の5人。国内で関東地区以外のメンバーは、喜多(北九州市)、小嶺(福岡市)、佐々木(旭川市)、島田(札幌市)、中島(秋田市)の5名。(安富渥子)

昭和45年ナリの会

太田陽太郎は向ヶ丘遊園の近くではリハビリ室をやっている。40肩、50肩、腰痛などでお悩みの方は是非ご利用を(TEL 044-9333-7183)。腕は確かです。大塚良彦は野村證券名古屋支店に転勤。やっと我が家に住めることもあり、元気に東京を去る。岡田良三(松下)は大坂に転勤。そのうち母校早稲田でまた勉強したいと相変わらず向学心が旺盛。同じ松下の嶋田勉はロンドンで、同じく佐藤信二はドバイで活躍しています。また元松下の堀江浩一郎(秀明大教授)はこの1月より外務省から派遣され、ボスニアヘルツェゴビナにて平和の実現に向け奮闘中。真崎晃郎はニューヨークから帰任、世界のソニーの専務に就任。益益の活躍を祈念します。(室屋隆二)

昭和49年晴耕雨読

爽りの秋、稲門も黄金色に輝いています。今年は夏の好天に恵まれ、豊作が期待できそうです。

Uターンしてすでに二十一年が過ぎました。故郷岩手に帰る私に、友は「晴耕雨読」という素晴らしい言葉を贈ってくれました。今は、その言葉と友を思いながら、休日には畑の仕事をしながら心身のリフレッシュをしています。

